

首里城火災後の被災収蔵品の緊急処置対応について（概況）

総合研究センター 琉球文化財研究室
首里城管理部 事業課 広報企画展示係

はじめに

2019年10月31日未明に首里城火災が発生し、南殿展示室、黄金御殿展示室、南殿特別収蔵庫、寄満特別収蔵庫等にあった展示品ならびに収蔵品が被災した。

本稿は、被災後の収蔵品の搬出から確認への流れや被災後の収蔵品確認などの緊急処置対応についての概況を報告するものである。

1. 収蔵品搬出及び確認作業状況

（1）被災後の収蔵品搬出作業

11月1日より南殿展示室の展示品の搬出作業を行い、翌日2日から3日にかけて、南殿特別収蔵庫、寄満特別収蔵庫等から収蔵品の搬出作業を実施した。

※美術品輸送業者による協力のもと作業を実施

◆11月1日 16:00 南殿展示室内の展示品の搬出



南殿展示室ケース内



搬出状況

消防の協力を得てエンジンカッターで防火戸を破り、展示室内にあった展示品を搬出した。展示ケース内は熱をもっていたので、一時的に非難が可能な場所を確保し、ブルーシートを敷いて対応した。

◆ 同日 18:00 搬出後、沖縄県立博物館・美術館の協力を得て、同館に保管した。

◆11月2日 12:00 南殿収蔵庫内より収蔵品の搬出を開始した。

消防の協力を得てエンジンカッターで収蔵庫扉を破り、収蔵庫内にあった収蔵品を搬出した。酸素濃度を計測し通常値となったところで庫内に入り、作業を開始した。庫内は体感温度が高い状態だった。



南殿収蔵庫内



南殿収蔵庫内の搬出状況

当初、南殿内の収蔵庫前で搬出した展示品と収蔵品のチェック作業を行う予定であったが、天井等の部材落下の危険性もあったため、急遽、屋外でチェック作業を行った。

- ◆11月2日 14:00 寄満収蔵庫内より収蔵品を搬出した。

消防の協力を得てエンジンカッターで寄満収蔵庫の扉を破り、庫内にあった収蔵品を搬出した。酸素濃度を計測し通常値となったところで庫内に入り、作業を開始した。庫内は体感温度がかなり高く、消火水と思われる水漏れもあった。寄満収蔵庫内の状態が、かなり悪いと判断し、南殿収蔵庫での搬出を一時中断し、寄満収蔵庫での収蔵品の搬出を優先した。

- ◆ 同日 18:00 寄満収蔵庫内の収蔵品の搬出作業が終了した。

搬出した収蔵品は、沖縄県立博物館・美術館及び沖縄美ら島財団那覇事務所に移動した。



寄満収蔵庫内



城郭の南側への搬出状況

- ◆11月3日 9:30 南殿収蔵庫内より収蔵品を搬出する作業を開始した。

- ◆ 同日 17:30 作業終了。

(2) 協力機関

被災から搬出作業、確認調査、一時保管等については、多くの機関の協力を得て実施することができた。

- ・文化庁
- ・沖縄県教育庁
- ・沖縄県立博物館・美術館
- ・那覇市教育委員会
- ・那覇市歴史博物館
- ・浦添市美術館
- ・沖縄県立芸術大学
- ・美術品運送業者（琉球物流株式会社）

(3) 所在確認及び状態確認調査

- ◆11月2日 17:20～ 沖縄美ら島財団那覇事務所内にて収蔵品の所在確認及び状態確認調査。



絵画資料の状態確認調査

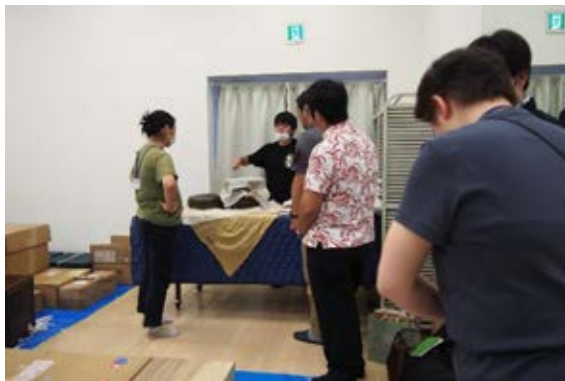


調査資料

- ◆11月3日 9:30～ 沖縄県立博物館・美術館内にて収蔵品の所在確認及び状態確認調査。

- ◆11月4日 漆工品を中心に状態確認調査の作業を実施した（～10日）。

- ◆11月10日 沖縄県立博物館・美術館内での確認調査の一部を終了した。
沖縄県立芸術大学へ収蔵品の一部を移動した。



漆器資料の状態確認調査



調査状況



金工資料の状態調査



損傷の見られる漆器

※現在も状態確認作業は継続して実施中

2. 確認した資料の状態

沖縄美ら島財団で所在確認調査を行った結果、1,510点の資料（美術工芸品等）のうち1,119点は焼失を免れたことが分かった。ただ、これらは熱などの影響を受けていることが考えられるため、各分野の専門家により状態確認調査を実施した。その結果、漆器や染織、絵画の多くに熱や水害などの影響による劣化が見られた。

- ①漆器：漆器については、収蔵庫内での熱と水害により、包んでいた薄紙の付着や塗膜の劣化が見られた。被害の大きな資料については今後長期間の修繕作業を要する。
- ②染織：染織品については、収蔵庫内での熱と水害により、顔料の変色、生地劣化が見られた。また展示室から搬出された資料については、煤が付着しており、今後の修繕方法を検討中である。
- ③絵画：絵画についても、同様に顔料の変色、掛軸の軸首の漆塗塗膜に劣化が見られた。

※その他の分野の資料についても今後引き続き状態調査を実施する。

収蔵品等の確認状況（所在確認済みのもの）

	火災前 総収蔵数	火災後 総収蔵数	火災後	
			修理不要数	要修理数
絵画	183	156	150	6
漆器	487	285	4	281
染織	306	302	283	19
書跡	125	106	101	5
陶磁器	127	46	25	21
金工品・その他	282	224	192	32
合計	1,510	1,119	755	364

※その他（石彫刻・歴史・民俗・刀剣）

※「修理不要数」に含まれる収蔵品については、今後も経過観察を要する。